

光一中だより

教育目標

- 自主的に学び、考え、実行する人
- 心豊かで、ともに助け合う人
- 健康で、勤労を愛する人



練馬区立光が丘第一中学校
校長 山谷 安雄
令和4年度 第11号
令和5年3月9日

1年を終えるにあたって

校長 山谷 安雄

令和4年度も残り1か月を切りました。コロナ禍が一段落して2年生がスキー移動教室に行ってきました。2年生全員が達成感を味わうことができた意義のある行事だったと思います。

さて、例年通り今年も3年生を対象に校長による面接練習を行いました。毎年同じような質問をしています。「3年間で一番印象に残った行事は何ですか」という質問です。例年はスキー移動教室をあげる生徒が多いですが、今年は、「修学旅行です。理由は中学校で初めての宿泊行事で友達と2泊3日一緒に過ごせたからです。」という答えが多かったです。

また、「将来の夢か目標を何かもっていますか。」という問いに対して、半数程度の生徒はまだ決まっていないという答えでした。高校で探しますという生徒が多かった気がします。将来の夢や目標は、ある意味で学ぶ意欲に結び付くと言えます。学校で学ぶ意義について、以前読んだアメリカのオバマ元大統領が行った演説の一部を紹介します。

「今日私がお話したいのは、教育に対する皆さん一人ひとりの責任についてです。皆さんが良い仕事に就くためには、そのための教育を受け、努力をし、学ばなければなりません。そして、これは、皆さん自身の人生と将来のためだけの大事なことはありません。皆さんが教育から何を得るかによって、まさにこの国の将来が決まるのです。皆さんがあらゆる授業で身に付ける想像力や創意工夫の能力が、国を発展させるのに必要になります。皆さんがこうした努力をしなければ、自分の国を見捨てることになります。」

と新年度を迎える子供たちに演説をしました。

英文の直訳なので分かりやすい日本語で説明すると、一人ひとりの「学ぶ」という行為は、自分の将来のためだけでなく、社会がよりよく発展し、多くの人々が幸せを得るためにも大切なものということです。それをオバマ元大統領は「責任」という観点から子供たちに語り掛けました。

「学ぶ」ことの意義について義務教育（子どもにとっては権利教育）を違った視点からとらえたものだと言えます。

さて、4月からは、新しい学年、新たな友や先生方との出会い、新たな「学び」が始まります。子どもたちの「学び」と「成長」に大いに期待していきたいところです。この1年間、子どもたちはどの程度成長したと感じているのでしょうか。そして、春からは、さらに子どもたちにどのように成長してもらいたいのか、親の立場で自分の経験を話したり、親の願いを話すことも大事であると思います。